



2019年がん講演会報告

外科系診療部長 田代 裕 尊

11月17日(日曜日)に呉信用金庫(呉市文化)ホールで、がん講演会“がんを知り、がんの克服を目指す2019”が開催され、約1200名の市民の方が来場されました。

まず、開会に当たって下瀬院長から新院長として当院でのがん拠点病院としてのがん診療の取り組みにいて挨拶され、続いて来賓のご挨拶では新原呉市長より呉鎮守府開庁130周年を記念して当院の前身ともなる呉海軍病院から始まる当院の歴史と当院での最先端のがん診療による呉医療圏への貢献につき祝辞を賜りました。第一部では当院の4名の講師による講演がありました。まずがん看護専門看護師の立場で奥田師長から「もしも」のときのために大切な人と話してほしい」と題して、患者さんの思いに沿った診療、介護を実践していくためには病気になる前から家族と話し合っておくことの重要性について判り易くお話しされた。次いで乳腺外科重松科長より“乳癌治療最前線”と題して、女性では罹患数ももっとも多い癌であるが、治療の進歩によりその予後はかなり良好であり、早期発見のための自己検診を含めた早期診断の重要性を述べられた。血液内科科長の伊藤先生からは“血液疾患治療の進歩”と題して、白血病や悪性リンパ腫に対する化学療法との進歩と共に劇的にその予後も改善してきたことを多くの自験例から判り易く解説された。最後に外科の清水医長からは“大腸癌治療の進歩”について早期大腸癌に対する内視鏡的切除、大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除、化学療法の進歩と大腸癌の治療

成績の劇的な向上について当院での豊富な経験から判り易く解説された。

第二部では、昨年に続き内山優子さんと鷺宮美幸さんによる、ヴァイオリン・ピアノ演奏が行われました。演奏が始まるとヴァイオリンとピアノの奏でる見事に調和した音色に引き込まれ、心休まるまさしく癒しのひと時でした。

第三部では、タレント清水国明さんは「後半人生最高の生き方」と題して講演された。講演の中で、悪性腫瘍による十二指腸全切除手術を受けるに当たって、手術前はかなり心配されたが、手術後の目標を3つ立てそれを考えることで術前の不安がかなり解消できた(3つ目の目標は達成されたか否かは不明)経験談や、またがんを克服された今、アウトドアの活動による東日本大震災の復興に向けたボランティア活動を通じた社会貢献など自分の失敗談を笑いに変えたユーモアあふれる楽しい講演であった。まさしく癌を経験した後の最高の生き方の一つを示された。

最後に、大庭統括診療部長から、“あのねのね”の“赤とんぼ”の歌を引用し清水国明さんへの御礼と参加者の方々への感謝の言葉で盛会裏に本年度のがん講演会は終了しました。今回は、第一部での寸評を省くことで進行も順調に進み、市民公開講座を終えることが出来ました。また来年度もユーモアあふれる楽しい講演会を期待したいと思います。

